

●中国への輸出好調●出荷額はスケトウ抜く

【江差】 松山支庁水産課は6日、2009年の管内漁業生産状況（八雲町熊石地区を含む）を発表した。中国への輸出が好調な松山産ナマコは、03年には1019円だった1キロ当たりの平均単価が、09年は約3・6倍に当

たる3712円に上昇し、過去最高値を更新した。不振が続く管内の漁業生産額に占めるナマコの割合も増大。09年の出荷額はスケトウダラをわずかに追い抜き、イカに続く第2位に躍り出た。（松浦 純）

09年管内漁業生産状況

中国では品質の高い松山産ナマコの評価が高く、05年ごろから輸出が急増している。平均単価は05年1762円、06年2707円、07年3228円、08年3444円と右肩上がりの上昇。単価の上昇に支えられ、漁獲額も06年は3億3833万円（前年比109%増）、07年には6億2200万円（同84%増）と倍増。08年は5億900万円（同18%減）と減少したが、09年は5億3900万円（同6%増）と増加に転じ、管内漁業生産額の12・8%を占めた。漁獲額は06年にウニ・アワビを抜いて第4位に。07・08年は不漁だったサケを、09年には不漁が続くスケトウダラを追い抜き、イカに続く第2位の位置を占めた。

ナマコの漁獲量は06年125ト（同34%増）、07年189ト（同52%増）と大きく伸びたが、資源保護のため漁獲量を自主規制する動きもあり、08年148ト（同22%減）、09年145ト（同2%減）とやや頭打ち。ナマコは、イカやスケトウダラに代わる主要魚種として期待も高いが、資源減少の懸念も高まっている。種苗放流などの長期的な取り組みが求められている。松山支庁は新年度、上ノ国町にナマコの増養殖を担当する職員を派遣。同町を中心に資源増大の取り組みを支援する方針だ。

一方、09年の管内全体の漁業生産量は、漁獲量1万4337ト（同8%減）、出荷額41億9217万円（18%減）

松山産ナマコ 単価過去最高

と、1975年以降では最低水準を記録。スルメイカ5108ト（同11%減）、スケトウダラ2884ト（16%減）は、いずれも過去10年間で数量・金額ともに最低だった。サケは444ト（同16%増）、ウニ349ト（同5%減）、アワビ19ト（同6%増）、アオヤギ（エンバカガイ）は172ト（同5%減）と例年並みだった。



発行所/函館新聞社
〒041-8540
函館市港町1丁目17番8号
電話②2121 F A X③3131
販売局④4141 F A X④7744